

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の問題内容では、「漢字を書く」の目標値 51.7%に対して、校内正答率 33.3%だった。 ・村学力調査の問題内容では、「文法・語句に関する事項」の目標値 60.7%に対して、校内正答率 66.3%だった。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を書く」については、令和3年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。 ・「文法・語句に関する事項」については、令和3年度に当該の授業改善推進プランが作成されていない。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を書く」では、漢字の書き取りと短文作成を関連付けて計画的に行っている。 ・「文法・語句に関する事項」では、文法・語句の復習と短文作成とを関連付けて計画的に行っている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①漢字の書き取りの習熟度を計画的に確認し、個別最適な支援を実践する。</p> <p>②文法・語句の習熟度を計画的に確認し、交流を通して見方・考え方を広げる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の結果で、「漢字を書く」の問題項目の校内正答率が、目標値を5%以上上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の結果で、「文法・語句に関する事項」の問題項目の校内正答率が、目標値を5%以上上回っているか確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>2学期の授業評価アンケートにおいて、40%の生徒が文法・語句の学習に前向きな意見を記述し、意欲を高めることができた。</p> <p><課題></p> <p>村学力調査の結果で「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」の問題項目の校内正答率が10ポイント前後下回った。「話すこと・聞くこと」について、生徒の表現活動を実践することに課題が残った。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟語を用いて短文を作る活動を通して、複数の漢字を関連付けた学習指導を実践する。 ・スピーチや対話の表現活動を通して、「話すこと・聞くこと」と「文法・語句に関する事項」とを関連付けた授業を実践する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>「漢字を書く」や「文法・語句に関する事項」ことの学力向上が、らせん的に意欲に結び付く生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

基本的な知識理解が不足している領域がある。

例1 歴史科「飛鳥時代～平安時代」 この時代における問いの正答率が約34%であった。
ただし、基礎問題の正答率はおおむね良好な状態である。
(令和5年度 小笠原村学力調査の結果 参照)

例2 令和5年度本校教科アンケート 「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」について、「あまりあてはまらない」28% (7名中 2名)

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

資料を活用し情報を適切に調べ、まとめる。

⇒ 上記した学力調査の結果から、知識理解は不足しているが、活用には長けているという結果が示されている。よって、令和3年度の課題は改善できていると判断する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等
前提として、『わかる』から『できる』を体感する授業の実現のためには、まず『わからなくては
いけない』

(上記した本校アンケート結果参照) よって、『わかる』ための工夫を以下に記す。

①毎授業ごとの自己評価を実施。小項目ごとに理解度を記述させ、指導者から必ずフィードバック
を行っている。

②知識理解を高めるためにワークブックを利用した反復学習を行っている。なお、その際には丁寧
に個別指導を実施し、「わかる」まで指導を行っている。

これらの指導・工夫を継続することで、社会科における基本的な知識理解が得られる(網羅でき
る)と考える。

また、昨年度の同学年における教科アンケートと比較すると学習理解度は上昇している。それを
踏まえた『できる』ための工夫として「基礎的知識を活用し、グループワークを通して多角的・多
面的な思考育成するパフォーマンス課題」を小単元ごとに設けることとする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①上記 2 (2) に記した工夫を継続する。
- ②後期授業評価アンケートを実施する。

<検証方法>

- ①・パフォーマンス課題の結果分析
- ②後期授業評価アンケートの結果分析
(理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%を
目指す)

4. 検証結果(成果と課題)

<課題>

- ・上記アンケート結果に変化なし。
(「この教科の学習内容について、現在どの程度理解
をしていますか」について、「あまりあてはまらな
い」28% (7名中 2名)【R5年度 後期アンケート
結果】)

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留
意すべき事項

- ・学ぶことへの動機づけを刺激していく。
(教科に加え、将来のキャリアと関連させる)

6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿

教科の学習内容の理解度が総じて上がり、多面的・多角的な見方や考え方をより多くの生徒が身に付けて
いる。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 数学科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・2年生数学を見ると、全体的に全国平均を下回り、課題があるといえる。特に、「データの活用」に課題がある。観点については全体的に課題がある。授業を行う中で、小学校での基礎的な計算方法が部分的に身に付いていない場合がある。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">①問題場面を正しく読み取り、立式する。②四則計算・四則と答えの大きさの関係など、前学年までの既習事項を正しく扱う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・毎単元に自力解決で行う問題演習の前に、クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。・「連立方程式」の単元において、ホワイトボードやジャムボードを使用した教え合い活動	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①過去の既習内容の苦手意識を取り除き、間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。②自分の考えをまとめ、クラスメイトに共有することで深く理解する。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①小テスト<ul style="list-style-type: none">・実施前と後に行い、定着度を確認する。②ホワイトボードやジャムボードを用いた発表<ul style="list-style-type: none">・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>小テストで知識・技能、発表で思考・判断・表現を主に検証し、理解度が増し、上手に伝えることができるようになってきた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>計算ミスなど、細かいところでのミスが目立つ。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・途中式など過程での集中力を保つよう指導する。・理解した知識・技能を説明する際に使用するよう促す。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>主体的に学習に取り組み、思考・判断・表現を必要とする問題に取り組み、またそれを級友と教え合えることができる生徒。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 令和5年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「火山」「地層」「地球」分野はどれも正答率30%を下回った。どの分野も基礎知識の定着が課題である。 ・図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。 ・「知識・技能」の正答率が46.4%であり、知識の定着が課題である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の結果から、条件を比べて考え、表現できるように、グループで話し合う時間をより多く設ける。文章問題から読み取り、整理し、問題を解く活動を取り入れ、文章読解力、表現力を高められるように支援する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球分野は中学校1年生で学習しているので、個々の能力に応じた復習問題を補充する。中学校2年生で学習する地球分野においても、タブレット端末を活用しモデル実験や図、映像資料を使い、主体的に考える学習活動を充実させる。 ・小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着を図る。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個々の能力に応じた復習問題を補充，タブレット端末を活用した学習活動の充実。 ②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容の分析 ②年間15回程程度の小テストと年間3回の定期考査を実施した内容の分析 </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個々の能力に応じた復習問題を補充，タブレット端末を活用した学習活動の充実。 ②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容の分析 ②年間15回程程度の小テストと年間3回の定期考査を実施した内容の分析
<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個々の能力に応じた復習問題を補充，タブレット端末を活用した学習活動の充実。 ②小テストの活用や授業内容をこまめに振り返ることで「知識・技能」の定着。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ICTを用いた発表の評価と年間2回の授業評価アンケートの実施内容の分析 ②年間15回程程度の小テストと年間3回の定期考査を実施した内容の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで意見を共有する時間をより多く設けたことで、自分の考えをアウトプットできる生徒が増えた。 ・小テストや定期考査の結果から、文章読解力を要する問題の正答率を高めることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験をモデルにした文章題を読み取る力はあるが、基礎知識でミスをする生徒が見られた。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の定着を図るためにタブレットを用いて授業の振り返りを行う。また、小テストの予想問題を活用し、定期的に家庭学習の機会を設定する。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿 自然事物・事象に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 音楽科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

今年度の授業評価アンケートの興味・関心の項目に関してはA B合わせて100%となっている。しかし、理解度に関しては、Cの「あまり当てはまらない」が14%となっており、課題がある。

定期考査の結果、音符の長さ・名前・強弱記号など、音楽の基礎的知識が定着しない部分があり、昨年度からの課題として引き続き力を入れていく。

授業中の発言やワークシートの内容を見ると、前年度と比べ、音楽に対する興味は高くなっていると感じることが多くなってきた。「苦手」という意識をなくし、自信をもって表現していくことも課題の一つである。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

「基礎的・基本的な演奏技能の習得」が課題となっており、改善策として、自己評価に基づいて課題を設定し、個に応じた学習でつまずきを解消することとなっている。その結果、自己評価によって、基礎的な技能を振り返りながら身に付けられたことが成果として挙げられている。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

定期考査の結果、基礎的な知識の定着に課題があった。したがって、定期考査後、ICTを使用し、音符すごろくに取り組んでいる。すごろくは今までに学習し内容を取り入れ、実際に実演する場面を入れた。グループに分かれて活動することにより、教え合い活動が活発に行われ、「わかる」の回数が増え自信がつき、「できる」を体感することができたようである。また、フォームを使い、ドリル形式で簡単な音楽用語を復習する時間を設けていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①授業内の実技発表を実施する。
- ②フォームを使ったアンケートを実施する。

〈検証方法〉

- ①授業内での実技発表の分析
- ②授業内で行ったアンケートの分析

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

定期考査の「やってみるといいことあるかも」ドリルをフォームで作成し、任意で取り組みを実施した。ソ結果、ドリルで出題したところは100%ではないが、正答率が高かった。

〈課題〉

自分の考えをもち、様々な分野で意見を発言したり、記述したりすることができるが、「このくらいでいいかな」という気持ちが現れることもある。特に鑑賞の分野ではその傾向が強い。

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・鑑賞の授業内容の改善、特に実際に歌ったり、楽器に触ったりして「音楽を聴く」というだけではなく、実体験を伴いながら工夫した指導を行っていく。

6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿

最上級生として、中学生だけではなく、小学生もあのようになりたいと思わせられる歌唱ができる生徒。

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度前期授業評価アンケートでは、「美術科の学習を通して、この教科への興味・関心を高めることができているか」という項目に関して、29%が「あてはまる」、また、「この教科の学習内容について、現在どの程度、理解しているか」という項目に関しては、57%が「100～75%」、残りの14%が「50～25%」と回答している。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いといえるが、学習内容の理解や確実な定着については課題が見られる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 【課題】大人から与えられた知識や、社会の習慣などを受動的に理解するのではなく、自分の感覚や行為とともに、イメージをもつ。 【改善策】母島の自然だけでなく、古今東西の作品などから造形的な特徴や抽象的なイメージをもつことで、自分の感覚や行為を通して形や色などの造形感覚を高め、自ら造形的な知識や感覚を高めていけるように、中学校美術科を意識して課題を設定する。 【評価】感受性は比較的豊かで、多様な芸術作品を鑑賞する中でもそのよさやおもしろさを味わうことができている。鑑賞活動などで感じたことや考えたことを相手に伝えたり、それを作品制作に生かしたりするような、より深い学びにつながる工夫を増やせるとよい。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 対話は活発だが内容の深まりは弱いため、ワークシートを活用して考えを整理して記述する時間を多くとった。思い浮かんだままの言葉を発するだけにとどまらず、既習事項などを活用して思考を整理してから相手に伝えるように意識付けることで対話的な学びの質が向上し、感覚だけでとらえていたことに根拠や意図を付随できるようになると考える。これらの取組を継続して分析的な活動を主体的にできるようになることで理解度を高め、『できる』という体感を得られるよう支援していく。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②年間3回の定期考査の実施をする。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②年間3回の定期考査の実施をする。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析
<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②年間3回の定期考査の実施をする。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒がもつ力を引き出せるようにスモールステップを設定して授業を展開し、生徒が試行錯誤を繰り返して計画の軌道修正を行いながら、課題解決能力を養うことができた。 授業毎や題材毎の振り返り活動を充実させ、少ない時数の中で授業1回あたりの密度や質を上げていくことができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現したい主題に基づいて、主体的に見通しをもって活動に取り組み、自ら期限に対する感覚を養っていく必要があることが課題である。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が目の前のことにとらわれており、今やるべきことや予めやっておきたいことなどへの意識は薄く、週に一度の実技教科である美術科で活動のモチベーションを保つのは難しいのが現状であるため、教科係を活用した授業外での声かけや、ICTを活用してリマインドをさらに丁寧に行い、見通しをもって計画的に課題に取り組めるよう支援していく。 受験を控えた最上級学年としての自覚が芽生えるような導入や振り返りの工夫が必要である。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>作品完成までの見通しをもち、自ら粘り強く継続して課題に取り組むことができる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、「教科の関心を高められているか」という質問について、全生徒が肯定的にとらえている。一方で、「内容を理解しているか」という質問について、「あてはまる」と回答した生徒は43%にとどまっている。実技発表の様子からも、技能を十分に身に付けられていないことが課題である。 ・新体力テストでは、全国平均を上回る種目もあるが、握力と持久走に特に課題がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基礎体力を向上する。 ②課題について、思考・判断し、他者に伝える力を育成する。</p> <p>【改善策】①体力テストの結果より、自己に必要な体力についてデータを示す。目標を設定し、継続的に運動に取り組ませる。 ②学習カードやICT機器を活用し、視覚的にわかりやすいようにするとともに、仲間と意見を交換する機会を設け、理解を深めさせる。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動の設定や多様な運動を経験することで、バランスのよい体力の向上を目指している。 ・学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的にわかりやすいように工夫している。 ・体力の違いや技能に応じて、ルールを緩和したり、補助具を活用したりすることで、積極的に取り組むことができるようにしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施をする。 ②授業内の実技発表を実施する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②授業内の実技発表の分析
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期授業評価アンケートの結果より、「授業内容を理解している」の項目について、否定的な生徒が0%になった。興味・関心を高めている」という生徒は100%である。 ・基礎体力が向上し、取り組むことのできる技や技能が増えた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の考えを他者に伝える場面は増えたが、思考したことと技能の向上の結びつきに課題がある。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見した課題の改善方法を共有し、実践する力を養う。 ・複式学級における男女共習授業であることを配慮し、より多くの生徒の意見を共有し、学びを深めることができる環境を整える。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>生徒自身が心と体を一体として捉え、主体的に豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばしている。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 技術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。 ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の観点で差が出てくる生徒がいる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I 理科の既習事項を踏まえ、エネルギー変換の知識・技能を活用した技術の活用を実践する。基盤に電子部品を実装し、電気エネルギーの利用がどのように行われているのか、実感としてとらえられるようにする。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習振り返りシートを用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。 ・グループワークを取り入れ、学び合いを活発化させることで知識・技能の習熟を図る。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるように振り返りシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②ノートやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを活用することにより、生徒の理解度に合わせた支援をすることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を設定し、その解決に主体的に向かう力に課題がある。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の支援により、課題解決に向かうことができているが。自ら改善点を見付け、解決に向かう姿勢を育てる必要がある。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>使用条件や使用目的を踏まえ、自分の考えや思いを、技術的な根拠を基に相手に伝えることができる生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の定着や授業で学習した内容を、自身の生活と結びつけて考えることが求められる。 ・既習事項をもとに、グラフや表から読み取れることや自身の考えや意見を、根拠をもって具体的に文章や言葉にして表現することができる生徒が少ない。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「基礎的・基本的な知識や技能を習得すること」、「固定概念を払拭し、視野を広げること」が課題として挙げられる。その授業改善策として、既習事項を他の題材と内容に関連させながら確認することや可能な限りの実習やグループワーク通して授業を展開したり、ICT機器を活用しながら母島以外の生活様式に触れる機会を増やしたりすることで理解を深めることができたようである。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>引き続きICT機器を活用し、可能な限りの実習やグループワークなどの体験的な活動や、ワークの活用を通して知識の定着を図り、実生活と結び付けて考えさせていく。また、グラフや表の読み取り演習や自身の考えや意見を相手に伝えられるような課題を作成しながら、理解を深めさせていく。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ワークの活用や視覚教材やICT機器を使用し、知識同士を結び付けながら定着させ、自身の生活を振り返りながら内容を深めさせられるように、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。 ②既習事項をもとに、グラフの読み取りや自分の考え、根拠をもって説明できるような能力を身に付けさせる。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授業内での課題や製作記録、年間3回の定期考査、年間2回の授業評価アンケート ②授業内での課題や製作記録、年間3回の定期考査
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自身の生活と結び付けながら、学習を深めることができた。 ②既習事項を活用しながらグラフを読み取り、適切な情報を選択することができた。(定期考査より) <p>＜課題＞</p> <p>自身の考えや具体的な意見を、既習事項を用いながら相手に分かりやすく説明することに課題がある。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用し、自身の考えや意見を相手に分かりやすく説明するため機会を増やす。そのために教材研究の時間を確保する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>既習事項を活用して、自身の考えや意見をまとめて説明できる生徒。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 英語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・村学力調査において、「読むこと」に関する問題の校内正答率が50.0%と低い。中でも、「長文の読み取り」の正答率が35.7%と、とりわけ低い。・同調査において、「書くこと」に関する問題の校内正答率が30.0%と低い。中でも、「場面に応じて書く英作文」の正答率が28.6%と、とりわけ低い。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「読むこと」については、令和3年度の当該の授業改善推進プランが策定されていない。・「書くこと」に関する記述の転記 ペアで学習する機会を設け、机間指導を通して、個別に暗記の仕方や学習方法をアドバイスする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒とのやり取りを通して文章を読む目的を示した上で、文章の読み取りを行うための個別学習の時間を設ける。・新出語句や文法事項の学習の際に、授業内で同一の内容を複数の方法で複数回学ぶ機会を設け、反復学習を取り入れた指導を行う。・聞いたり読んだりしたことをもとに、相手に合った提案を書くなど、技能統合的な活動を取り入れる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①読み取りにつまずきがみられる場合、内容上あるいは表現上手掛かりとなる語句を提示する。②生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習を通して新出語句や文法事項の学習を行う。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①年4回の定期考査②1セクションごとの小テスト
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">・短い文章から必要な情報を読み取ったり、説明文や物語の概要を読み取ったりする力を高めることができた。・基本的な語句の発音や意味、綴りの定着を図ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・学習が進むにつれて文章量が増え、上記内容を読み取るのに時間がかかる場面も見られた。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、目的に応じて、必要な情報を把握する力を身に付けることができるよう指導する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>社会的な話題に関して読み取った内容に基づき、感じたことや考えたことなどを伝えることができる生徒。</p>	